

<http://www.ait.ac.jp/>

ホームページにアクセスしてください。
本学の情報をたくさん盛り込んでおります。

瑞若

■住所変更等のご連絡について

住所などの変更は、メールでも受け付けております。ご住所、ご勤務先など変更点と、お名前、学科または卒業年などをお書きの上、下記あてにお送りください。

●同窓会事務局 mizuwaka@aitech.ac.jp

※ご登録いただいた個人情報は同窓会に関する案内および大学から依頼された案内の発送のみに使わせていただき、本人の承諾なく第三者に開示することはありません。なお、個人情報の取扱いについては、HPに明記した瑞若会個人情報保護ポリシーに準じます。

■愛知工業大学同窓会

支部結成のために必要とされる手続き

1. 支部結成発起人(氏名、卒業年、学科)
2. 支部同窓生氏名(氏名、卒業年、連絡先等)
3. 支部則原案(見本を作成していますので、参考してください)
4. 支部本部となる連絡場所…連絡先、住所、電話番号記入
5. 正式に支部として承認されましたら、支部則に基づき支部長、副支部長、会計その他の役員を本部に届ける

※職場支部結成については、10名以上の同窓生が在籍していること

申込先

〒470-0392 豊田市八草町八千草1247

愛知工業大学同窓会事務局 TEL.0565-43-1032 (FAX共通)

mizuwaka@aitech.ac.jp

愛知工業大学 同窓会機関誌 **みずわか**

発行日——2008年12月

編 集——vol.41 瑞若編集委員会

岩月栄治、内田敬久、馬詰恵伍、大元 司、後藤時政、立枕孝之、西 裕之、
坂野慎介、平松誠治、前田 賢、水野勝教(チーフ)、山田千代美(事務局)

発行責任者——建部 謙治

発 行——愛知工業大学同窓会

〒470-0392 豊田市八草町八千草1247 Tel.&Fax.0565-43-1032

印 刷——株式会社 大東社

〒494-0008 一宮市東五城字備前25 Tel.0586-62-1168 Fax.0586-62-1751

制 作——アクア・ビット

Topics-1 50年の歴史と、未来へ向けて……	1	クローズアッププロフェッサー……	13
Topics-2 2009年度学部再編……	3	キャンパスニュース……	15
Topics-3 映画『築城せよ!!』を製作!……	5	クラブニュース……	17
エクステンションセンターガイド……	7	OBニュース/がんばるOB……	21
入試インフォメーション……	9	OBニュース/集まるOB……	23
就職インフォメーション……	10	施設クローズアップ……	25
AITオープンフォーラム……	11	事務局だより……	27

50年の歴史と、未来へ向けて

2009年に愛知工業大学は開学50周年を迎えます。大学創立から常に、時代のニーズに応え、社会に貢献できる人材育成に努めてきました。その歴史を振り返りながら、今後の展望について、後藤淳理事長・総長と後藤泰之学長にお話を伺いました。

50年を振り返って

後藤 淳 理事長・総長

電気技術者の必要性から大学設立

1912年(大正元年)に祖父が創立した、「名古屋電気学校」を母体に、1959年(昭和34年)、「名古屋電気大学」として電気工学科のみの大学を設立しました。電気というのは、ものづくりの原点となるものです。電力会社や鉄道会社などをはじめ、産業界における電気技術者の必要性を感じ、電気専門の学校を設立したと聞いています。

電気工学科の一学科から学科を増やして、名称も変更しますが、すでに名古屋工業大学がありましたので、「名古屋」を名乗ることはできず、「愛知」を頭につけて現在の名称にしました。

学科増設、そして八草への移転

当時、大学も自宅も名古屋市千種区若水町にあり、自宅の場所に応用化学科の校舎を建てることになったわけですが、学科が増えて手狭になり、1965年(昭和40年)に八草への移転を決めました。校舎を建て、設備を整えつつ、2年後から順次、移転を開始しました。移転を終えるまでに10数年、そ

の間に当時の学長である父が急逝し、大学整備に奔走したのは思い出深いできごとです。

学園として体制を整える

学園としては、一貫教育に力を入れています。60年余の伝統を誇る「愛知工業大学附属中学校」に導入した、中高一貫体制は評価が高まりつつあります。また、「愛知工業大学名電高校」は、普通科のほかに、愛工大とつないで高大7ヵ年一貫教育をする、情報科学科と科学技術科を設けています。また、情報教育の場をと豊田市からの要請を受けて「愛知工業大学情報電子専門学校」を1992年(平成4年)に設立しました。

学園発展のなめは大学

学園の中心にあるのは大学であり、大学がきちんと機能していくことが学園全体としても重要です。また、今後は産業界とも今まで以上に密接に関わっていく必要があります。それには教育者としても社会人としても魅力ある先生の存在は欠かせません。

同時に社会で活躍される同窓会の皆さんにも大学に思いを馳せ、同窓会がより強力な組織となっていればと期待しております。

■大学の主な歩み

1912年9月 名古屋電気学校創立
 1954年4月 名古屋電気短期大学開学
 1959年4月 名古屋電気大学を開学(工学部電気工学科設置)
 1960年4月 愛知工業大学と名称変更(電子工学科・応用化学科を設置)
 1962年4月 機械工学科・経営工学科を設置
 1963年1月 愛知工業大学同窓会設立
 1963年4月 工学部第Ⅱ部に電気工学科・機械工学科を設置
 1965年4月 工学部第Ⅰ部に土木工学科を設置
 1965年7月 名古屋電気短期大学を愛知工業大学短期大学と名称変更
 1966年4月 大学院工学研究科修士課程(修業年限2年)を開設し、電気工学専攻・応用化学専攻を設置

50周年を迎えるにあたって

後藤 泰之 学長

理工系の総合大学を目指して

50周年を前に、この5、6年で学部、学科の再編を行ってきました。愛工大は工学部を中心にものづくり教育をすすめてきましたが、作るだけではだめ、売れなければ意味がありません。そうした背景から、ものづくりと関連して売ること、企画することを学ぶ経営学部と、現代社会のビジネスで重要な役割を果たす情報を学ぶ情報科学部を設置し、2009年度より3学部体制にします。目指すのは理工系の総合大学です。

キャンパスの整備、新設をすすめる

情報科学部をメインに新しい学部展開のために、1号館の建て替えをします。かねてから学部に関係なく学生たちが気軽に使える空間を用意したいと思っており、1・2階には学生の学びを支援し学生の交流の場となるフリースペースを設ける予定です。また、産業界からも要請の強い、組み込みソフトウェアの技術者を育てるため、実習施設(仮称:組み込みソフトウェアセンター)を整備する予定です。

2010年(平成22年)には、名古屋市自由ヶ丘にキャンパスを新設します。大学院経営情報科学研究科のある本山キャンパスにも近く密な連携ができる上、高校とのアクセスもよく、高大の連携を深める上でも有効活用できると思います。

記念事業は学生が挑戦できる場を

今までも学びの枠にとらわれず、鳥人間コンテストへの参加などをサポートする、学生チャレンジプロジェクトを設け、ものづくりに挑戦できる環境を整えてきましたが、50周年の記念事業として映画製作をしました。映画にはものづくりのいろいろな要素があり、生きた教育の場

1966年8月 八草草台に移転開始
 1968年4月 工学部第Ⅰ部に建築学科を設置
 1972年2月 後藤淳学長、就任
 1976年4月 工学部第Ⅰ部に建築工学科を設置
 1988年4月 工学部第Ⅰ部に情報通信工学科を設置
 2000年4月 経営工学科を学部改組し、経営情報科学部を開設(経営情報学科・マーケティング情報学科を設置)
 2004年4月 後藤泰之学長、就任。2学部10学科から2学部6学科12専攻に学科を再編成
 2008年4月 2学部6学科13専攻2コースに再編成

となると考えたからです。ものを作る過程だけでなく、できたときの達成感や感動が大切。学生たちにもぜひ、その体験をしてほしいのです。必ず将来につながると思います。

世界で通用する人材を育てる

今後は世界で通用する人材の育成が不可欠と考え、国際化にも力を入れていきます。若いうちから海外の人たちと交流をはかることで海外が身近になるはず。具体的には、海外の大学との提携を増やしつつ、学生同士の交流も積極的にすすめたい。その一つに、「国際からくりワークショップ」があります。昨年から実施し、今年もアメリカ、中国、韓国の学生たちが参加しましたが、来年は参加国を増やして大々的に開催したいと考えています。また、ビジネスの世界ではアジア経済圏を意識していかなければいけませんので、それも視野に入れて、中国の東南大学や韓国海洋大学校とは、双方で学んだ学生に共同で学位を出す協定を結びました。

同窓生の皆さんのご協力も得て

研究面と人材育成面から社会に貢献することが大学の使命と考え、産業界との連携強化をはかる拠点として、2008年(平成20年)5月、学内に産学連携機構を設置しました。同窓生の皆さんもぜひ、大学の知財、施設を活用していただければと思います。

今後とも、母校として誇れるような大学にするようさらに努力をすすめて参りますので、ご支援よろしくお願い致します。

2009年度 学部再編を経て、文理総合大学へ

時代のニーズ、産業界の要請に応え、
文部科学省の改革を受けて、
より専門的な実学教育を目指した、学部再編をします。

※2009年4月開設(設置届出予定)



経営学部 ※ について

現 経営情報科学部長 / 近藤高司 教授



情報科学部 ※ について

現 情報科学科長 / 阿部圭一 教授



工学部 について

現 工学部長 / 江口一彦 教授



工学部の本質はものづくりです。「不易流行」で、本質を守り、時代の流れを意識した再編を行います。日本のものづくりを支える中部圏で求められる人材を育成し、地域に貢献できる大学を目指しており、卒業生を送り出すだけでなく、産業界との共同研究など成果を還元できるような教育と研究を念頭に置いています。

電気学科は従来からの**電気工学専攻**と再編した**電子情報工学専攻**の2専攻になります。コンピュータシステムのハードは工学部で、ソフトは情報科学部の専攻とした、学部を超えた再編です。

応用化学科は従来の**応用化学専攻**に加えて、時代のニーズに対応した**バイオ環境化学専攻**を新設しました。

機械学科は2専攻と変更はありませんが、知能機械工学専攻を**機械創造工学専攻**と名称変更するとともに、カリキュラムの見直しもはかりました。これは、中部圏が航空宇宙・自動車・ロ

ボット分野のメッカであることを受け、即戦力になる人材を送り出すことを目的としています。一方、**機械工学専攻**はレベルの高い専門家の養成を目指していきます。

また、社会インフラに欠かせない基本技術を学ぶ土木と建築はそれぞれ学科を分け、**都市環境学科**は**土木工学専攻**のみとし、**建築学科**に**建築学専攻**と**住居デザイン専攻**を設け、より専門性を高めています。

2008年度までの経営情報科学部は「経営学部」と「情報科学部」に分離し、時代の流れにきめ細やかに対応し、独自性の高い新学部を目指します。

ビジネスの世界でのコンピュータ応用は徹底しており、新たな情報技術をいかに企業経営に取り入れ、経営の効率化をしていくかが必要とされています。また、国際化もすすみ、東アジア圏とのビジネス交流も深まっています。こうした背景を前提に、マーケティング専攻での学びをビジネス全般に広げ、**ビジネスマネジメント専攻**としてスタートします。語学や現地の経済、文化などに精通した人材の育成を目指し、名称変更とともに内容の充実をはかっていきます。

経営情報専攻は、**経営情報システム専攻**と名称変更し、企業経営で情報技術を活用した情報管理ができる人材養成をすすめていきます。

スポーツマネジメント専攻は、健康指向にあわせて増えつつある、健康産業分野のリーダーの育成をしていきます。

最近のコンピュータ業界は、携帯電話や家電などに埋め込まれた「組み込みシステム」と呼ばれるコンピュータソフトの需要が増加し、技術者の不足が叫ばれ、その数は7万人とも言われています。そうした社会の要望に応えられるよう、**コンピュータシステム専攻**は、今までよりも理系色を強め、電気学科や機械学科とも連携をとりながら、道具としてコンピュータを使える人からソフトウェアを作る人へと、より専門的な人材を育てます。

メディア情報専攻は、コンテンツを作れる人を育てます。時代がハードウェアからソフトウェアへと移行する中で、その先にはコンテンツの市場が広がっています。単にデザイン性に優れたものというだけでなく、情報が適確に伝わるという面もバランス良く備えたコンテンツ製作ができることを目指します。

大学創立50周年記念事業で

劇場映画製作にあたり、企画段階から深く関わってきた、森豪教授(エクステンションセンター長)にお話を伺いました。



運営などは、実際の学びと直結したものです。また、学内や猿投町などを中心に行われたロケでは、地域の人々にエキストラで出演をお願いしました。これによって様々な交流が生まれ、地域の拠点となる大学という役割を担うきっかけができたと思っています。

Q なぜ、愛工大で映画製作をすることに?

学長から「愛工大50周年の記念事業に、皆が参加でき、大学にふさわしいものを!」という発案があり、映画製作はどうかと…。古波津陽監督の映画のテーマは「ものづくりによるコミュニケーション」でした。「テーマが大学の方向性に合うし、学生たちにとってもプロのものづくりを学べるいい機会になる」という学長の考えもあり、大学全体で取り組むことになりました。

Q 『築城せよ!』はどんな映画ですか?

戦国武将の魂が現代に甦り、住民とともに段ボールの城を築く物語。着想の奇抜さ、奇想天外なストーリーが魅力です。段ボールの城には、弱い素材であっても、皆の熱い心と力を合わせることで、しっかりしたものができるというメッセージが込められているんですよ。

Q 映画製作にあたって留意したことは?

製作の基本方針は、「皆でやる」「教育の場とする」「地域と交流する」です。学内でのフォーラム開催をはじめ、ヒロインの友人役やエキストラ、スタッフなどとして総勢数百人の学生が参加。段ボール城の製作・検証や、専用サイトの作成・

Q 大学も全面的にバックアップした?

ロケ地として大学施設を使うだけでなく、みらい工房は撮影セット製作の場として開放し、学生寮は宿泊施設に、大学の食堂はスタッフへの食事場所に提供するなど、できる限りのことはしました。また、記者会見やフォーラム開催の準備をしたり、教職員がエキストラ出演するなど、ハードとソフトの両面で関わってきました。

Q 今後の予定は?

今年中に編集を完了し、2009年4月には試写会、7月には名古屋を皮きりに公開されます。同窓生の皆さんもぜひ、ご覧ください。

スタッフ・キャスト

- 古波津 陽監督
- 益田祐美子プロデューサー
- 主要キャスト:
片岡愛之助さん
海老瀬はなさん
阿藤 快さん
藤田朋子さん 他



▲主要キャストが出席した、6月23日の記者会見



▲3月28日に行われた、製作記者発表会

映画『築城せよ!』を製作!



映画製作を支えた、学生パワー!

●メーキングビデオ部

「築城せよ!公式サイト」を立ち上げ、活動記録の取材・原稿作成も含めたHPの運営を担い、ポスターなどの広告物や製作情報の管理を行うなど、いわば縁の下の力持ちとも言える存在。鳥居一平准教授のもと、メディア情報専攻1年の3人が担当しました。

鳥居先生は「Webは斬新なデザイン、画面に配された玉の動きやスライドする画面など、細部までこだわりましたよ」。小野木学さんは「見やすさも考えて作りました」。丹羽崇仁さんは「取材を通して、コミュニケーション能力を磨くトレーニングになった」と言い、岡田陽介さんは「インタビューする相手によって質問を考えるなど、人を観察する力を養うことができた」と語ります。

■築城せよ!公式サイト
<http://aitech.ac.jp/~fpc/>



▲メーキングビデオ部のメンバー

ヒロインの友人役、伊藤さん(左)と若松さん(右)▶

●建築研究会

ヒロインの女子学生が研究している内容を実際に行ったり、高さ3メートルの段ボール城を作って検証したり、美術部門に参加してプロの指導を受けながら撮影セットの製作にも携わりました。部長の建築環境学専攻3年の宮本健太さんは、「材料が木材とは違うので苦労しましたが、貴重な体験でした」。

●歴史研究部

地域の歴史研究、岩崎城(日進市)の調査などを通して、地域との交流に一役買いました。

▼段ボールの城作りに取り組む建築研究会



▲小道具のデザインをする、美術班

子どもから大人まで、
一般の方が参加できる講座がいろいろ。
ぜひ、参加してみませんか!

本山キャンパス、八草キャンパス、パーティセとなど、
一般の方が参加できる様々な講座や講演会を開催しています。

<http://www.aitech.ac.jp/e-center/>



オープンカレッジ

本山キャンパス

小学高学年向けには、ものづくりや実験を行う「少年少女科学・ものづくり教室」を開催。大人向けには、パソコンやマネー、家庭菜園など実生活に役立つ講座や、地域について学ぶ講座、ものづくり、語学など幅広いジャンルの講座があります。春季と秋季の年2回開

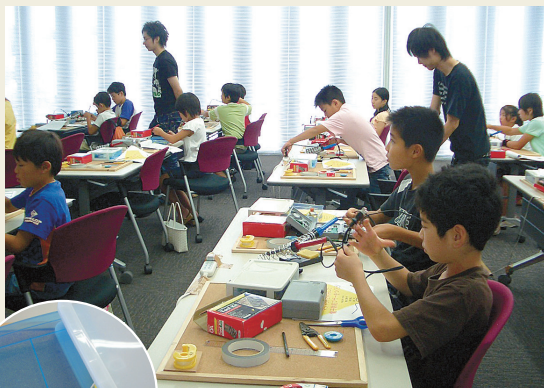
催され、中には早々に定員オーバーになる人気の講座も。興味のある方はぜひ、お問い合わせください。

お問い合わせ先 本山キャンパス
TEL 052-789-1381

オープンカレッジ
講座レポート①

少年少女科学・ものづくり教室 「マグネットを利用した電子防犯ブザーをつくろう」

すぐに定員になった、人気講座の一つ。「理科ばなれとか言われていますが、子どもたちはものづくりが好きなんですよ。この中から将来、優秀なエンジニアが育って、一緒に研究できたら楽しいですね」と中野寛之講師。子どもたちは、先生や学生の皆さんの親切な指導を受け、器用に電気ごてを使ってハンダづけに挑戦しながら、電子防犯ブザーを製作しました。



▲真剣そのもので取り組む子どもたち

引き出しを開けるとブザーがなる仕組み▶



▲部品を見せながら説明する、中野講師



▲電子防犯ブザーのキットと説明書



講演会・講座

パーティセと

名鉄・尾張瀬戸駅前のパーティセとで開催される講演会や公開講座は、高校生以上の学生、一般の方を対象に開かれています。参加費や受講料は無料で、「大学コンソーシアムせと」に加盟する6大学から派遣された講師が、テーマに沿ってわかりやすく話をします。

平成20年度、愛工大は杉野丞教授による「定光寺源敬廟の原点を探ってみよう」をテーマにした講演会、客員教授の玉屋庄兵衛氏と玉屋一門外弟子の横井誠氏による講座「玉屋庄兵衛のからくり人形—江戸時代より伝承の技—」を開催しました。

お問い合わせ先
大学コンソーシアムせと
TEL 0561-97-1177



エクステンション講座

スキルアップ、資格取得に挑戦! 八草キャンパス

同窓生の方も受講でき、一般の講座に比べ優遇されています。資格を取りたいときなどには、ぜひ、ご利用ください。
～学生と同じメリットが受けられる!～

- その1 専門学校に比べて受講料が安い
- その2 資格・検定試験の受験に際しての出願手続きをセンターが行うものが多く手間が省ける
- その3 ほとんどの講座はビデオで見ることができ、欠席したり、復習したいときに便利
- その4 PCが接続できる情報コンセントのある自習スペースが用意されている

下記のような講座が開かれています。ほかにもいろいろありますので、詳しくはHPをご覧くださいか、エクステンションセンターまでお問い合わせください。

●講座の一例

初級システムアドミニストレータ(秋季試験対策)講座、ファイナンシャル・プランナー技能士3級講座、宅地建物取引主任者講座、マルチメディア検定(2・3級)講座、TOEIC講座、危険物取扱者(甲種・乙種4類)など

お問い合わせ先 愛工大 エクステンションセンター
TEL 0565-48-8121(代表)
URL <http://www.aitech.ac.jp/e-center/>

オープンカレッジ
講座レポート②

地域防災研究センター講座 「緊急地震速報の活用法」

2007年から一般運用されている緊急地震速報。その仕組みや内容、どこでどのように活用されているかなど、正木和明教授から詳しい説明がされ、参加者も熱心に聞いていました。



▲資料をもとに詳しく説明する正木教授

オープンカレッジ
講座レポート③

人と町の地域学講座 「江戸の信仰掛軸を読む」

古文書研究家の鬼頭勝之先生による、興味深い講座。古代から江戸まで続いた信仰の原点などについて、古い資料をもとにわかりやすい解説がされました。



▲資料を片手に話をする鬼頭先生



▲晴天の中、開かれたオープンキャンパス

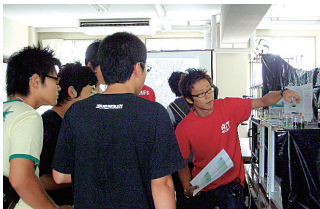
春・夏・秋の3回 オープンキャンパス開催!

昨年までは、年2回開かれていたオープンキャンパス。今年は春にも行われ、3回の開催となり、多くの受験生や保護者が訪れました。

夏は7月20日(日)、21日(祝)の2日間にわたって行われ、約1700人の参加がありました。各入試の説明会や個別相談コーナーでは、入試の内容について熱心に質問する参加者の姿が見られました。各専攻では、例年にも増して工夫を凝らしたデモンストレーションを展開。授業や研究内容を学生たちがわかりやすく説明したり、実際に実験などを体験できるコーナーもあり、楽しみながら大学での様々な学びを知ることができたとあって、好評でした。



▲入試のことなど個別に相談ができる総合相談コーナー



▲応用化学科のデモンストレーション



▲都市環境学科のデモンストレーション



▲機械学科のデモンストレーション

多彩な入試制度で、受験生のチャンスを広げます!

全学部でAO入試がスタート!

スポーツマネジメント専攻を除き、全ての学部で実施しています。2009年度は終了。

選べる推薦入試の数々!

指定校推薦、スポーツ推薦、資格推薦、女子学生推薦、一般推薦、自己推薦の6種類があります。2009年度は終了。

まだまだ、間に合う一般入試!

2009年1月の出願で受験できます。ご家族やお知り合いに受験生の方がみえましたら、ぜひ!

●入試日程

入試区分	入試の名称	出願期間	試験日	実施学部	試験会場	合格発表日
前期日程	一般試験 前期日程 A方式 (記述式)	1/7(水)~23(金)	1/28(水)	経営・情報 全学部 工学部	本学、名古屋、岐阜 四日市、津、浜松 静岡、金沢、富山 松本、岡山、福岡	2/9(月)
			1/29(木)			
	1/30(金)					
	前期日程 M方式 (マークセンス式)		1/31(土)	全学部		
	センター試験 利用入試 センター一次 (3教科利用)	1/7(水)~16(金)	本学が課す試験はありません。	全学部		
後期日程	一般試験 後期日程 M方式 (マークセンス式)	2/2(月)~20(金)	2/27(金)	全学部	本学、岐阜、四日市 津、浜松、富山	3/5(木)
			2/2(月)~23(月)			
	2/27(金)~3/13(金)	本学が課す試験はありません。				
	センター試験 利用入試 センター二次 (2教科利用)					
	センター試験 利用入試 センター三次 (3教科利用)					3/19(木)

高い就職率を誇る愛工大!

2007年度実績 工学部 **97.5%**
経営情報科学部 **96.3%**

08就職に「超」強い 全国**第4位**
大学400で 愛知県**第1位**

『読売ウィークリー』2008.8.3号の特集で、就職決定者数300人以上の大学より

心強いバックアップ!

同窓会組織「瑞若会」はもちろん、大学と保護者との密な連携をとる「愛知工業大学後援会」や中部財界の主要企業約750社、350人余の個人会員が参加する「愛名会」は、就職活動を支援してくれる頼もしい存在です。

万全の就職サポート! キャリアセンターがお手伝い

入学した直後から、4年間にわたって段階的、継続的に就職支援をしています。
個別相談も行うキャリアセンター



1 年次 大学を知る!

就職に向けての有意義な学生生活の過ごし方についてのアドバイスや自己発見レポートの作成をします。

2 年次 目標を持つ!

自己プログレスレポートやインターンシップを通して、自分の興味や強みを明確にして、進路目標を具体化できるようにアドバイス。



▲インターンシップで就業体験

3 年次 就職活動の準備!

秋からの企業へのエントリーに向けて、下記のような様々な支援プログラムを行っています。

- 就職適性検査
- SPI模擬試験
- 就職対策講座
- 学内企業展 など

人事担当者面談
できる学内企業展



4 年次 本格的に就職活動!

3年生の春休み頃から本格化する就職活動。いち早く内定を勝ち取るために、面接対策講座や個別の就職相談を行います。

キャリアセンターから~同窓生の皆様へ

当センターでは、各専攻の担当教員と連携をとって就職指導・支援を行っています。基本的なマナーを身に付けさせるのはもちろん、就職に関する意識を高めるような指導を行っています。インターンシップ制度を活用した職場体験も積極的にすすめておりますので、学生受け入れに

ご協力いただける場合はキャリアセンターまでご連絡ください。また、学内企業展や地元企業交流会も行っております。求人に関しましては、WEBによる求人登録システムがありますので、ぜひ、ご利用ください。

▶<http://www.kyujin-navi.com/uketsuke/>

お問い合わせ先 TEL:0565-48-8121(代) キャリアセンターまで syusyoku@aitech.ac.jp

※同時開催された支部総会については24ページに掲載しております

AIT OPEN FORUM
第69回

平成20年9月13日(土)
四日市都ホテル

「世界遺産にみる仏教建築の源流を訪ねて」

講師 杉野 丞 教授/工学部 都市環境学科 建築学専攻



「仏教文化は6世紀中頃、中国より我国に伝えられました。中でも、寺院建築は南都を中心に国家の保護により数多く建立され、そうした寺院建築の源流を訪ねた人物がおりました。建築史家伊東忠太は明治35年に中国大陸へ渡り、シルクロードに残された多くの仏教遺跡の踏査をしました。それは世界遺産への旅でもあり、その

足跡を訪ねてみます」と題して、興味深い講和がありました。

- また、
- 1) 玄奘三蔵の旅
 - 2) 敦煌の発見
 - 3) 大谷光端の旅
 - 4) 伊東忠太の旅
- などについても解説がありました。

AIT OPEN FORUM
第70回

平成20年9月20日(土)
岐阜グランドホテル

「眼力(メチカラ)と日常生活」

講師 石垣 尚男 教授/経営情報科学部 経営学科 スポーツマネジメント専攻



「昨年6月に任天堂(本社 京都市)から私の監修による【見る力を実践で鍛えるDS眼力トレーニング】が発売されました。大変な人気となり発売当初、品切れが続きました。おかげさまで多くの人に楽しんでもらっています。東北大学の川島教授の【脳トレ】以来、トレーニングブームに火がつき、多くのトレーニングソフトが出ています。これらのトレーニングブームは、人のもつ様々な能力へ気づきを与えるとともに、自分の能力の再発見や、さらにそれらを鍛えることでより良い生活

につなげるというプラスの影響をもたらしています」との切り口により講和がなされ、また、

- 1) 日常生活と視力
 - 2) 日常生活とガンリキ
 - 3) メチカラとは
 - 4) 日常生活とメチカラ
 - 5) メチカラのトレーニングとその効果
- などについても紹介されました。

AIT OPEN FORUM
第71回

平成20年9月27日(土)
京都タワーホテル

「描けますか? こどもの頃の原風景」

講師 建部 謙治 教授/工学部 都市環境学科 建築学専攻



「社会が大きく変わろうとしている現代において、私たちはどうすれば快適にゆたかに暮らせるのでしょうか。子どもを取り巻く生活環境も例外ではありません。将来の日本を担う子どもがどうあって欲しいのか、どう育てていけばよいのか、私たち一人ひとりが真剣に考える時期にきています。今、行政でも子どもの視点でのまちづくりに関心をもっています。私たちにも子どもの頃があったはずですが、少し忘れてしまった子どもの頃を思い出しながら、子どもを取り巻く環境について、遊び、生活、安

全の切り口から考えてみましょう」との提言に基づき、

- 1) 生活環境の影響
 - 2) こどもの安全
 - 3) あそび体験と記憶
 - 4) こどもの発想
 - 5) これからの住まいのつくり方、まちのつくり方
- などについて、解説がありました。

AIT OPEN FORUM
第72回

平成20年10月4日(土)
金沢都ホテル

「司馬遼太郎と無私の精神」

講師 森 豪 教授/基礎教育センター 総合教育教室



「司馬遼太郎は、【自己を縮小して物を見る】ことについて、次のように述べている。『物を見るというのは、自分を極小にまで縮めて行って、できれば空の一点になりおおせるときが、最も鮮やかに見えることでしょう。小説が自己を拡大する作業であるとすれば、自己を縮小することをもって創作の経過のひとつにしているような私の場合…、そういう自分がいやだといっても、しかし自己を縮

小せねば自分以外の物など見えるはずがなく、そう考えてゆくと、私が書いてきた小説というのは、小説というちゃんとした古典的概念にあてはまるのかどうか、常に疑問のままだです』との題材について紹介があり、大変興味がわく解説に参加者は聞き入っていました。また、司馬遼太郎が小説を書く動機となった戦争体験についても言及されました。

AIT OPEN FORUM
第73回

平成20年10月18日(土)
浜松名鉄ホテル

「ついに始まった緊急地震速報配信 ~何が起きているのか~」

講師 正木 和明 教授/工学部 都市環境学科 土木工学専攻



「昨年までのオープンフォーラムでは、【緊急地震速報の配信が始まります】と紹介しましたが、昨年10月よりついに一般向け配信が開始されました。岩手宮城内陸地震では見事配信が活用され、多くの学校や事業所で大きな揺れが来る前に退避行動をとることができました。皆様もNHKテレビで配信の画面を見られたと思います。命を

守るために大変役に立つ緊急地震速報。学生・教職員の命を守るために本学では平成19年2月から全国の大学に先駆けて導入しています」というテーマで講話があり、併せて、本学における避難訓練の様子や同速報システムの紹介もあり、受講者は熱心に聞き入っていました。

AIT OPEN FORUM
第74回

平成20年10月25日(土)
岡山ロイヤルホテル

「インターネットの誕生と、その動向」

～世界を見渡す3DソフトウェアGoogle Earthの実演～

講師 近藤 高司 教授/経営情報科学部 経営学科 経営情報専攻



「1963年、ランド軍事研究所(米国L.A・サンタモニカ)の研究者ポールバランが【分散型通信システム】を考案した。それは、13冊の報告書であり、インターネット技術の原点である。当初は、アメリカ国防総省による核攻撃に耐える次世代の軍用通信システムであった。その後、多くの研究者による技術開発により、より便利で、高速で、高信頼性で、経済的な通信手段となる。コンピュータやデジタル・デバイスの急速な進化と、TCP/IP(通信方法)確立により e-mail, www(World Wide Web)など利便性が向上した。1990年代に入り、商用化して民間ビジネスに開放され、【情報スーパーハイウェイ構想(U.S.A)】、【e-Japan】となる。今日、ビジネスに、行政に、軍事、大学など、ありとあらゆる分野で使われ、通信の社会基盤(コ

ミュニケーション・インフラストラクチャー)となった。ネットショッピング、情報検索、メールなど市民生活に不可欠の道具である。その未来は無限であり、デジタル通信化の波、ハイビジョン革命は我々の生活に最も大きな変革をもたらすであろう。我々は、インターネットを賢く利用するとともにサーバー攻撃やコンピュータウイルスの脅威に対抗しつつサーバスペース時代を生き抜くことになる」と明快な解説がありました。併せて、世界を見渡す3Dソフトウェア Google Earthの紹介と実演があり、Googleの検索技術と衛星航空写真、地図、地形や3Dモデルなどを組み合わせ、世界中の地理空間情報を利用できる無料ソフトの紹介も行われました。

火災の予防にも つながる、 燃焼のメカニズムを 解明する

機械学科 機械工学専攻
国際交流室 室長
櫛田 玄一郎 教授



次世代エネルギーのメカニズム解明へ

熱工学、伝熱工学、燃焼工学を専門としている櫛田教授。燃焼現象における、火災や燃焼の状況を数値解析しています。

最近の主な研究は、メタンハイドレートの燃焼や分解に関するもの。氷のように固まった状態のメタンがメタンハイドレートで、「燃える氷」とも呼ばれています。日本近海は世界有数の埋蔵地帯と言われ、次世代のエネルギーとしても注目されています。しかし、実用化に向けては、解明されていないことが多いとか。「メタンハイドレートが、もし輸送中に燃えたりしたら危険です。従って、どのような燃え方をするのか、メカニズムを解明する必要があります」。研究室では、日本の大学でも数少ない実験装置を使い、メタンハイドレートを人工的に作って実験しています。ほかにも二酸化炭素のハイドレートを作り、消火に使用できないかについて研究しています。

様々な条件下での燃焼を研究

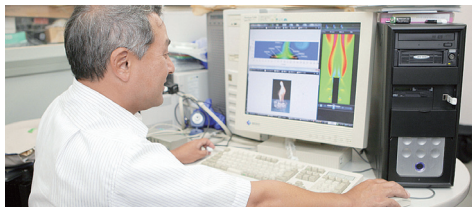
ほかにも、燃焼の研究では火災旋風に関する共同研究があります。地震による火災や山火事など広範囲な火災によって、炎をともなった竜巻が発生することがあります。それが火災旋

風と呼ばれるもので、被害拡大につながるために、そのメカニズムの解明が重要とされています。

また、固体燃焼における火災の燃え拡がりに関する研究では、かつてNASAのメンバーと、無重力下における紙や木の燃え拡がりの研究をしていたそうです。「最近は無重力がかかると、どのように変化するかを調べています」。

国際交流室長としても活躍

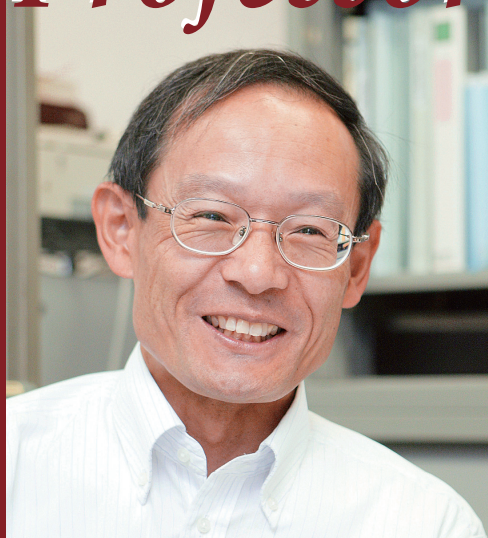
火災旋風の研究を通して、ケンタッキー大学の教授とは知り合いだった櫛田教授。それが縁で愛工大がケンタッキー大学と協定を結ぶことになったと言います。今は、2008年4月発足の国際交流室の室長も務め、海外の大学との交流に一役買っています。「学術交流協定を結んでいる大学と学生交流協定を結ぶようなシステムを作っていきたい」と国際交流の仕事にも、力を入れています。



▲パソコン上は燃焼における浮力流れの研究データ

自分が作り出した 新しい物質が 未来に 役に立つようにしたい

応用化学科 応用化学専攻
大学院 材料化学専攻
平野 正典 教授



研究は生活とも密着している

研究室では、無機材料化学について4年生、院生を指導する平野教授。セラミックスを中心とする無機物質を対象として、環境、エネルギー、リサイクルなどをキーワードにし、化学の力により生み出される、高機能な新たな材料についての研究をしています。遠い世界の話のようですが、実は私たちの生活にも密接に関わっており、自動車の各種センサーやエンジン部品、排ガス浄化システム、電子デバイスなどには、ファインセラミックスが用いられています。

オリジナリティを大切に

現在は、微構造を制御したナノ粒子の生成に取り組んでおり、それらの物性を調べ、応用の可能性や高機能化などについて研究しています。「今まで、世の中になかったものを作り出すのは非常に面白いですね。自分が作り出した物質を未来に役に立つようにしていきたいと思っています」。しかし、オリジナリティを求められる大学の研究は、口で言うほど簡単ではありません。材料科学の世界はスピードが速いので、様々なアイデアを出すことが必要だとか。「日頃から一生懸命やっていないと、アイデアやヒントは見つ

からないものです」。小さくてもオリジナリティのある仕事を目指しているそうです。

社会に役立つ人材の育成に力を注ぐ

指導者としては、学生たちがおもしろいと思うような経験ができるよう、きっかけ作りをしているそうです。「単に覚えるだけではなく、いろいろ調べて現象の仕組みや原因を知るのが大事。苦労はあるかもしれませんが、発見したときの喜びも大きいと思いますよ」。

また、学生が社会人として困らないような指導も心がけているとか。卒業研究のために何度も研究報告書を出させるのもその一つ。「面倒ですが、自分で考える力や文章力が身につくはず」。10年以上にわたり、企業で研究開発に携わってきた平野教授だからこそ。教えること自体にも発見は多いと、人材育成に情熱を注いでいます。



▲1600℃までの高温で使える実験用の電気炉

夏休み恒例 まるごと体験ワールド

小中高生にもものづくりや実験の楽しさを体験してもらう、夏休み恒例の講座が今年も8月2日(土)・3日(日)に開催され、多くの皆さんが参加されました。

温度計、風向計を作って 夏を測ってみよう

牛乳パックを使って温度計と風向計を作る講座。参加者の皆さんは、パックを切ったり、穴を開けたり、アルミ箔を貼ったり、熱心に取り組んでいました。「ひもを通すのは難しかったけど、おもしろかった」と参加していた小学生。早速、できあがった温度計と風向計を持って屋外に出て観察。真夏の太陽が照りつける中、体で感じる暑さと温度計の温度を比べたりしながら、記録をとっていました。



自分で作った温度計を使って屋外で温度を観察(左・左上)。切り込みを入れたり、ひもを通したり、簡単そうでもコツが必要な風向計作り(右上・右の上中下)。牛乳パックを使ったエコな風向計(左上の円)



受賞校

- 自然科学部門/優秀賞:多治見北高校、四日市西高校、一宮高校
- ものづくり部門/優秀賞:岡崎工業高校、愛工大名電高校、春日井工業高校

2008年 「AITサイエンス大賞」発表!

理科や科学のクラブの高校生を中心に、日頃の研究成果などを競う「AITサイエンス大賞」。11月15日(土)に行われたパネル展示、ステージ発表を経て、各部門3校に優秀賞、そのほか奨励賞、努力賞が贈られました。



洗濯のりを使ってアメーバのような物質を作る講座は、小学校1年から参加できることもあって、大人気。のびたり、光を当てたりしながら、できあがった不思議な物質(スライム)に興味津々でした。

学生たちが用意した、手づくりキットのお土産もついて、皆さん大満足のようでした。



ルミネッセンス アメーバをつくろう

集まれ! 卓球少年・少女



パソコンを使って動体視力を測定し、スポーツと眼の動きの間係について話を聞いたあとは、実際に卓球を体験。卓球部の部員たちによる迫力ある対戦を見学し、そのあとは、それぞれラケットをにぎってボールを追いかけ、楽しいひとときを過ごしました。



ダンボールで作ろう 僕と私の城を



映画『築城せよ!』に関連し、ダンボールを使って建築の楽しさにふれる講座が開催されました。白いダンボールを組み立て、思い思いに絵や文字を書いてオリジナリティあふれる箱作りでスタート。全員の箱ができあがったあとは、積み重ねて迷路に。大はしゃぎの子どもたちに交じり、保護者の方からも「ダンボールのイメージが変わりましたね」と好評でした。

★楽しい講座がいろいろ!★

- 地震を体験しよう ●電気ってなんだ? ●電子ってなんだ? ●よく飛ぶ竹とんぼを作ろう ●川の生き物の観察会 ●ロボポットカーをつくろう ●新理論でレンズの実験をしてみよう ●パソコン分解 ●サッカーロボット大会への挑戦!

第48回 愛工大祭開催!

10月11日(土)・12日(日)に開催された愛工大祭のテーマは「まんぷく」。恒例の企画のほかにも、コンサートあり、ステージありの盛りだくさんの企画に、学生のパワーが結集しました。



私たちは愛工大初!となるチア同好会です。チアの経験がない初心者の子も一緒に、「みんなで楽しく」をモットーに活動しています。結成して間もないので大会成績などはありませんが、昨年は愛工大祭に出演し、全員が楽しんで最高のパフォーマンスをすることができました。もちろん、今年も愛工大祭では他大学とのコラボなどの目玉もあったので、より一層の技を磨いてきました。また、これからどんどんメンバーを増やして活躍の場を広げていけるように意気込んでいますので、応援よろしくお願いします。ぜひ一度、大学祭でのパフォーマンスを見に来てください。We Love Cheer☆



チア同好会

通称:PIECES (ピースーズ)
部員数:10名
主将:秋山 亜沙美

GO☆FIGHT☆WIN



建築研究会は一般的には「LA・BASE (ラ・ベース)」の名で知れ渡っています。建築のことをもっと知りたい、多くの仲間と一緒に建築の勉強をしたい、話をしたいなど建築をこよなく愛する学生の集まりです。毎年多くの部員と協力して様々な建築のコンペティションに作品を提出したり、有名建築家の建物を見学に行ったりしています。

今年は映画『築城せよ!』の美術スタッフとして映画に参加するだけでなく、映画のPRも兼ねて大学祭でお客さんと一緒にダンボールのお城を築きました。そのため、毎日ダンボールとお城の研究、実験に頑張ってきました。

建築研究会

部員数:20名
部長:宮本 健太

ダンボールで
お城を築く!



美術部

部員数:18名
部長:勅使河原 一弘

皆で
楽しくデッサン!



美術部では経験者が主体となって活動していますが、初心者の部員も数多くいて楽しく活動しています。活動内容は個々で作品を作っていますが、発想や技術等については、皆でコミュニケーションをとりながらアドバイス合っています。

また、部員のレベルアップをはかるため合宿や写生会を定期的に行っています。その成果を発揮するために、毎年、大学祭で作品を展示します。いつもは個々の作品を出展していますが、今年は皆で協力合って作品を作りました。



硬式野球部

部員数:53名
主将:弟子丸 久昇

チーム一丸になって
目指せ神宮!



愛工大野球部は神宮を目指し、日々強い向上心を胸に、必死にボールに向かい、努力しています。毎日厳しい練習をしていますが、もっと上手になりたい、試合で勝ちたいという思いで打ち込んでいます。また、毎年2回、沖縄と北海道へ合宿に行き、違った環境の中でレベルアップをはかり頑張っています。

僕ら野球部員は、全寮制で寝食を共にし、同じ釜の飯を食べる仲間として時には厳しく、時には支え合って仲良く毎日を送っています。上下関係の壁もあまり無く、練習以外の時でも友達のように接しています。全員の力を合わせて勝ち取る勝利のために辛い練習に励んでいます。ご声援よろしくお願いします。

ホットニュース

オリンピック選手を経て 母校の卓球部の指導者となる

卓球部

鬼頭 明 コーチ
(H9K)

小学生で才能開花! ライバルとともに勝利に貢献

9歳から卓球をはじめ、クラブチームに所属し、小学生で全国ベスト8に入ったという鬼頭コーチ。その後、愛知県で1、2位



を競っていたライバルとともに愛工大附属中学校へ入学します。当時、部は低迷していて、二人の入学が卓球部復活のきっかけとなり、中学2、3年では全国大会で2位の成績を収め、一躍有名に。さらに名電高校でも二人の活躍は続き、2年生のときには名電高校に18年ぶりのインターハイ優勝をもたらしました。

愛工大へも二人揃って入学し、チームの中心となって大活躍。20年以上ぶりとなる全国大会優勝をやり遂げます。二人が勝たなければ、チームの勝利はないという状況で、メンタル面でも鍛えられたと言います。「ライバルがいたからこそ、刺激になり、力を合わせてやってこれたと思います」。また、指導者や先輩にも恵まれ、とてもやりやすい環境だったとか。

オリンピックにも出場 プロ選手として卓球をする

大学卒業後は、ドイツへ2年間卓球留学し、プロとしてスタートを切ります。「ドイツには強いプロリーグがあるんですよ。プロのコーチについて、技術的にも多くを学びましたね」。勝つことへの執着心は人一倍。試合に出ることで、

戦い方など学ぶことも多かったそうです。帰国後は企業に所属し、卓球一筋の日々を送ります。アテネ五輪にも出場し、2007年までプロの卓球選手として活躍してきました。

選手からコーチへ 経験を生かしつつ、学びの日々

コーチになって、「選手の立場よりコーチの方が難しいと感じています。いかに能力を発揮させるか。選手主導じゃないとのびないので、自主性を持たせて指導しています」。技術を教えるのはもちろんですが、人間力のアップにも力を入れているそうです。「対戦相手によって力を抜いたりするようではダメ。常に全力投球でないと。どんな舞台であれ、どんな相手であれ、自分のやるべきことをきちんとやるのが大事です」。第一線で活躍してきた選手時代の経験からくる力強いメッセージです。

現在は、後進の育成に励むかたわら、公認コーチの資格取得に向けて勉強をしているそうです。今後はコーチとしての活躍も期待されます。



「鳥人間コンテスト」に連続出場!

昨年に引き続き、第32回鳥人間コンテストに出場した、愛工大のチーム。今年のコンテストを振り返って、お話を伺いました。



●出席者のみなさん



機械学科 水谷充准教授 大学院生 小澤紀仁さん 大学院生 上沼徹也さん 大学院生 若山秀貴さん 機械学科4年 神谷聡史さん 機械学科4年 橋本雄司さん 機械学科4年 吉田士恩さん

Q 出場が決まったときの心境は?

橋本:書類審査を通過するまでは、本番を迎えられるかどうか不安な中で試験飛行などをしていたので、正式に出場が決まるとてもうれしかったですね。
吉田:今年はじめてパイロットとして参加しましたが、決まった時はプレッシャーもなく、ワクワクしました。

小澤:コックピットのフェアリング部分を担当し、発泡スチロールで削り出して形を作りましたが、大変でしたね。

水谷:でも、苦勞の甲斐があって、美しさはNO.1じゃないかと思ったね。(笑)

Q 今年の機体は昨年とは違う?

水谷:デザインやコンセプトもほぼ同じですが、パイロットが替わり、体重が軽くなった分、機体をひとまわり小さくしています。

神谷:主翼は新しい構造になりました。

若山:昨年は胴体で折れた部分があったのでカーボンクロスを巻いて強化し、重量を削るために部品を手づくりするなど工夫しました。

水谷:機体の重量が1キログラム増えるとパイロットに負荷がかかりますからね。

吉田:あまり実感がなく、自分の力でカバーできるだろうと思っていましたね。(笑)

水谷:機体の仕上がりは、昨年よりきれいだったと思いますよ。

若山:実は昨年、横がチャンピオンチームで、機体の仕上がりレベルの違いや、クルーの動きのすば

Q 今年のコンテストを終えた感想は?

神谷:試験飛行の飛行距離はのべ1.2キロメートルだったので、本番では悔しかったですね。

水谷:昨年より距離はのびたものの、57.48メートルで、順位はよくなかった。ただ、滑空前の機体審査はいちばんに通りましたし、評価点も5点満点の4点と、高い評価を受けました。

若山:機体の組み立て時間は短縮できたし、安全チェックもスムーズだったと思います。でも、飛べなかったのはプラットホームを飛び出すときの速度が遅かったのかも。あそこには何か魔物がいるのでは…と思いますね。

上沼:機体をスタート位置へ運ぶにつれて緊張が増し、プラットホームでも思うように仕事ができなかったため、もう少し冷静に行動できたらと思いました。

橋本:反省点などをまとめ、来年は3度目の正直をめざしてがんばろうと思っています。



まちづくりに情熱を傾ける姿勢は 昔も今も変わらない

常滑市長
片岡 憲彦 氏(51K)

ボーイスカウトの活動を通して 人と関わることを学ぶ

子どもが好きだったこともあり、一時は教職を目指した片岡さんですが、最終的には生まれ育った常滑の市役所へ。

何かと地域や団体の役を引き受けることが多かったという中で、いちばん長く携ったのがボーイスカウトの活動だとか。「子どもの頃に活動していて、大学2年から指導者の立場で再び参加するようになりました」。1990年には韓国ジャンボリーへ他の2人の指導者ととも中高生30数名を引率、翌年の世界ジャンボリーは隊長として参加するなど、当時からリーダーの素質がうかがえます。

より良い町にするために 積極的に仕事をこなす

役所では、最初に配属された商工観光課で「やきもの散歩道」の再整備をして、成功に導きました。「すでに2時間半ほどのコースはありましたが、看板やパンフレットなどにも工夫を凝らし、40分ほどでまわれる短縮コースを作ったんです」。

その後、様々な部署を経て再び商工観光課に戻ったときにも、39体のご利益招き猫を作り、「とこなめ招き猫通り」を整備したり、陶芸展の開催に尽力するなど、観光の活性化に努めてきたと言います。

観光だけでなく、「市民と接することができる部署を希望していたので、保健衛生課(当時)にも7年在籍しました」。ここでは、ゴミの分別収集の必要性を感じ、6年かけて100世帯単位で

説明会をするなど、草の根的な仕事に没頭。「町で住民の皆さんに会うと、“ゴミの人”なんて呼ばれましたね」(笑)。

常滑市の活性化に向けて 自らが先頭に立つ

前市長がリタイアを表明したときに、市の財政難も影響してか、役所内からは誰も候補者が出なかったとか。立候補をすすめられることもあったそうですが、昨年9月の陶芸展審査の終了までは考えられなかったと言います。無事に陶芸展も終わり、町のことを考えたときに自分でやろうという思いから、家族の賛成を得ると、1週間も経たないうちに前市長に伝えて退職、立候補と、思いを実行へ移します。

市長になってから、財政難の市を立て直すために、“50の改革プラン”をすすめています。一方で、町の活性化も重要と、「空港の開港でアクセスも良くなったので、企業や住宅の誘致も積極的に行きたい。また、ものづくりの町として栄えてきた歴史を残しつつ、空港に隣接する市として、新しさを取り入れたまちづくりをしていきたい」と語る片岡さん。最近では映画『20世紀少年』のロケ地になったそうで、町の良さがアピールされつつあるようです。



学びの大切さを実感しつつ 働きながら日々、成長している

日本モザイクタイル株式会社取締役部長 有限会社丸安代表取締役
伊奈 幸洋 氏(H4K)

学生時代の学びが役立つと 仕事に就いてから実感した

4年生で池田ゼミをとり、人間工学の面白さを知ったという伊奈さん。ゼミを代表して、経営工学会では卒論を発表。大学3、4年生は、家業の手伝いをしながら、TPM(Total Productive Maintenance)活動に興味を持ったそうです。「改善は幹部が行うものと思っていましたが、社員全員でやる必要性を感じたのを覚えています」。

最近では大学時代に学んだことが役に立つと思うようになったとか。「先輩からも授業の有難みは社会に出てから気づくよと言われましたが、まさしくその通りです」。

苦労を重ねた研究所時代が 今の自分につながっている

卒業後は株式会社INAXへ入社。配属された研究所では、化学的な知識が必要とされ、無我夢中で学術書を読み、毎週レポートを提出する日々だったと言います。「苦労も多かったですが、材料や製品などについての基礎知識を学ぶことができました」。

5年間の研究所勤めの後、タイルの原料を作る(有)丸安に入社し、2年後には日本モザイクタイル(株)との兼務となります。研究所で学んだ技術を生かし、生産効率を考えて仕事に取り組んできたそうです。そんな中、3、4年前に開発したマンション向けの薄型タイル「ライトスクラッチタイル」がヒットし、海外でも認められました。「完成までには、焼いたときの寸法誤差をいかに縮めるか、試行錯誤を繰り返しましたが、施工効率がよく、質感のあるタイルができました」。

社員が楽しく働くことができる そんな会社を目指しています

技術革新だけでなく、人の力を引き出すことも大切だと考える伊奈さん。社長とも相談して、倉庫を改造した談話室を作りました。70年代のオーディオ機器、炭火が使えるテーブルなど、こだわりの部屋です。社員はもちろん、取引先の方も利用できる施設ですが、入場料をとり、それを地元の施設などに寄付することで地域貢献もしています。また、丸安の社員たちは、月に1回、近隣の道路掃除をするなど、額に汗して活動しています。「会社の規模が大きくない分、小回りがききますし、社員の意見を聞くように努めています。社員が中心となる会社じゃないと長く続きませんからね」。スマイル活動もその一つ。社員から改善案を募集し、生産現場で生かしています。もちろん、成果があがれば提案者にも還元される仕組みです。

忙しい毎日ですが、趣味の料理を作ることも多いそう。得意なのはイタリアンとか。家族のために作るだけでなく、友人や社員にもふるまうほど。「料理は頭を使うので、仕事のアイデアが浮かんだりするんですよ」と語る伊奈さんは、公私のバランスをうまくとって充実した毎日を送っています。



集まるOB

瑞若会
「関東支部総会」開催

平成20年6月1日(日)に東京都品川区立総合会館で2008年総会と技術交流セレクションを開催。

水野政光関東支部長、来賓の後藤 淳総長のご挨拶に続き、昨年度の関東支部活動状況、会計、大学の近況、同窓会全体の活動等についての報告が行われました。

技術交流セレクションの講演の一つは、酒井春雄教授、水谷 充准教授による「琵琶湖の夏空に飛ぶ『人力飛行機愛工大号』」と題したもの。昨年に続き出場を決めた「鳥人間コンテスト2008」は、飛行機的设计技術や、実際の製作、パイロットの訓練等様々な要素が合格点となって参加できる極めて難易度の高いプロジェクト。参加までの苦労話や貴重な経験談、日頃は聞くことのできない様々な技術的工夫などが披露されました。後日、大会が行われた琵琶湖には、関東支部か



左:出席者が集まって記念撮影
右:後藤総長からのご挨拶

ら山口、水野の両氏が応援にかけつけました。

もう一つの講演は、関東支部の小荒井 順氏による『「e-ネット安心講座」ケータイ・インターネットの安心・安全な使い方～ネット社会から身を守る7つの常識～』。ケータイやインターネットを取り巻くe-ネット環境は日々進化し益々便利になって来ており、それと同時にリスクも増して来ております。ケータイやインターネットを安心かつ安全に使う方法など、身近で重要な内容でした。

フランクな雰囲気の中で会員同士が懇親を深め、懇親する懇親パーティー、会員諸氏からの近況スピーチ、新人紹介してお楽しみクジなどもあり、気軽に場を盛り上げる企画により楽しい会となりました。

瑞若会
「教職員支部総会」開催

平成20年6月28日(土)午後4時から愛工大本山キャンパスで行われた瑞若会教職員支部総会は、

平成18年9月29日設立総会に続いて2回目。後藤泰之学長、稲垣慎二副学長、野崎克己瑞若会会長、鈴木達夫瑞若会会長代理、松本壮一郎瑞若会副会長、建部謙治瑞若会事務局長のご来賓を迎えて開催しました。

学長はじめ来賓の方々からのご挨拶や激励を受け、特に学長からは、私たちの関心事である「教員免許状更新」について、愛工大がそのための「講義を実施する機関」として文部科学省に申請中であることなどの朗報がありました。建部先生(事務局長)からは「緊急地震速報と企業防災」と題した講演がありました。また、会員活動として伊勢工業高校の池田文俊先生の「バイオ燃料」の研究発表も行われ、同窓の会員が元気にがんばっていることに大変うれしく思いました。今回、



左:来賓の方々と出席者
右:会員による研究発表の様子

会員の参加者は45名ほどでしたが、総会・懇親会を通して「会員相互の親睦と資質向上」という当会の目的を十分に果たすことができました。開催に当たり、母校愛工大と瑞若会から会場の提供や諸経費の補助を受けました。

教職員支部は静岡県、愛知県、岐阜県、三重県の東海地区4県で約230名の会員を有するものの、まだ十分な組織になっていない状況です。教職員支部のもう一つの目的「母校の発展に貢献すること」が少しでもできるよう会員相互の団結をはかりたいと考えています。

次回の支部総会として、愛工大創立50周年を祝う瑞若会総会の日(平成21年7月4日)を予定しています。

(瑞若会教職員支部長 市川繁富)

集まるOB

AITオープンフォーラムと同時開催した支部総会

瑞若会「三重県支部総会」

平成20年9月13日(土)に四日市都ホテルで、三重県支部役員、会員34人と大学同窓会本部から野崎克己会長(41K)はじめ3人の役員が出席して、三重県支部総会が開催されました。議事に先立ち、畦地耕司支部長(37E)の挨拶に始まり、来賓として、小嶋憲三副学長(40E)から、大学の現状報告等を含めた挨拶があり、引き続き、総会次第に沿って議案が提議され、審議の結果、それぞれ原案のとおり承認されました。支部役員については新支部長に、松林 巧(50R)氏が選出され、他の役員は引き続き、それぞれご担当いただき、三重県支部が運営されることとなりました。



松林新支部長の挨拶

瑞若会「岐阜県支部総会」

平成20年9月20日(土)に岐阜グランドホテルで、岐阜県支部役員、会員26人と大学同窓会本部から野崎克己会長はじめ4人の役員が出席して、岐阜県支部総会が開催されました。議事に先立ち、久富正俊支部長(45K)の挨拶に始まり、来賓として、後藤泰之学長から、大学の現状報告等を含めた挨拶があり、引き続き、総会次第に沿って議案が提議され、審議の結果、それぞれ原案のとおり承認されました。支部役員についても選出され、今後も現役員により引き続き、岐阜県支部が運営されることとなりました。



久富支部長の挨拶

瑞若会「北陸支部総会」

平成20年10月4日(土)に金沢都ホテルで北陸支部役員、会員14人と大学同窓会本部から野崎克己会長はじめ4人の役員が出席して、北陸支部総会が開催されました。議事に先立ち、橋 照泰支部長(43M)の挨拶に始まり、来賓として、小嶋憲三副学長から、大学の現状報告等を含めた挨拶があり、引き続き、総会次第に沿って議案が提議され、審議の結果、それぞれ原案のとおり承認されました。支部役員については、新規役員の追加が承認され、他の役員については、引き続き、継続して北陸支部が運営されることとなりました。



橋支部長の挨拶

スナップコーナー



電気工学同窓会準備委員会

来年の大学開学50周年式典にむけて、平成20年9月12日(金)に本山キャンパスで同窓会の打ち合わせをしました。10月22日(水)には、第2回準備委員会を開催、意見交換及び同窓会メンバーの総会参加をどのように促していくかを協議しました。

土木同窓会

土木工学科第五回卒業生の同窓会を去る8月16日(土)にメルパルク名古屋で開きました。同窓会の出席者は27名、恩師として大根先生、不破先生、森野先生が参加されました。卒業から37年たち、第2の人生を過ごされてる方もおられ、懐かしい思い出話に花が咲きました。



オークマの職場同窓会の歓迎会
去る7月4日(金)に名古屋の栄にある炭焼き屋で、オークマの職場同窓会(OAIT)の新入会員(豊島さん、黒部さん、保木本さん)を歓迎する会をしました。

地震関連では、最先端の施設！



日本各地にたびたび起こる地震の被害。どうしたら地震の被害を最小限にできるかを、ハード、ソフトの両面から研究し、社会に貢献している施設が、耐震実験センターと地域防災研究センターです。

◀様々な形式の実験に対応できる耐震実験センター

耐震実験センター

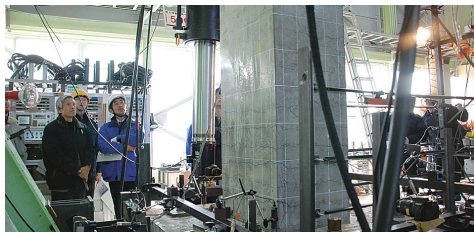
国内最大級の耐震実験施設です！

実験棟は、東西30メートル、南北20メートル、高さ約20メートル。大学の施設としては、国内でも最大規模。加振装置は、動的加振は約200トンまで、静的加振は3500トンまで可能です。

さまざまな分野の豊富な実験実績！

この10年で様々な企業等から耐震実験の依頼を受けてきました。とくに、陸・海・空に関する実験は多数。例えば、鉄道の架線を支えるフレームの耐震実験や高速道路の橋脚の性能実験、船舶の衝突時における衝撃の測定、飛行機の主翼などの疲労実験があげられます。

日常の事業活動や生活に直結する部分では、コンピュータデスクや家具、美術品の台座などの転倒防止に関わる実験などもあります。それぞれの実験に応じて装置を組み立て、フレキシブルに対応できる施設になっています。



▲橋脚の耐震強度実験の様子

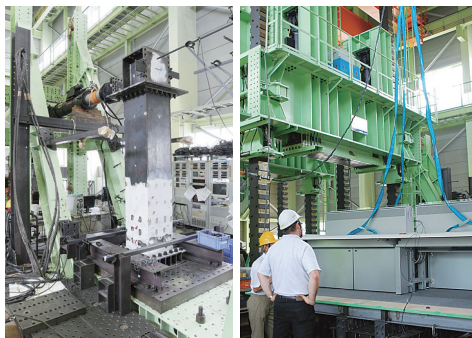


センター長
青木徹彦 教授

施設とデータの活用をすすめる！

最先端の技術を普及するために、実験データを活用したソフトの開発などもすすめており、コンピュータによる解析やデジタルカメラを使った画像計測など、新たな取り組みも行っています。

今年でセンター開設10年が経ち、データと実績は整っています。今後、実験に対応できる人材の育成がすすめば、さらに幅広い実験が可能となります。



▲橋脚の耐震性能実験等に用いられる装置

▲スイス製トレーディングデスクの耐震強度実験の様子

お問い合わせ先 >>> 耐震実験センター Tel.0565-48-8121 内線2530



ともに企業とも深い関わりのある施設となっていますので、ぜひ、ご活用いただくとともに、一度、見学などに訪れてみてはいかがでしょうか。

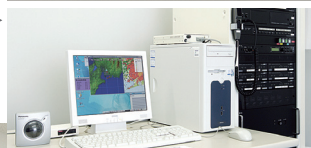
▶大規模地震にも耐えられる免震構造の地域防災研究センター

地域防災研究センター

緊急地震速報を含む地震情報の配信を行う装置



緊急地震速報を受信時、自動的に学内に放送する装置



▶緊急地震速報の受信等ができる観測装置

企業防災が地域防災につながる！

東海地域は、三河地方を中心に製造業が多く、産業集積地であり、一方で地震による被害の危険度が高い地域とされています。企業の被災は、単に企業だけにとどまらず、従業員、家族、ひいては地域全体にも波及しますので、企業防災が重要です。



センター長
正木和明 教授



▶免震装置が設置された建物の床下

緊急地震速報を企業防災に活用！

気象庁と平行して緊急地震速報のプロジェクトをすすめてきた当センターでは、約50カ所に緊急地震速報を配信しています。情報送信先は企業や自治体、学校、病院など幅広く、現在も配信先を募集しています。

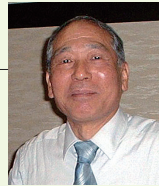
防災対策から事業継続が可能な対策へ

最近では、災害時にも企業が事業継続できるようにするというBCP (business continuity plan) を国がすすめており、その一環として、当センターでも「あいぼう会」と称した勉強会を実施しています。企業の「災害に対する被害の軽減」と「復旧の迅速化」を目的としています。

お問い合わせ先 >>> 地域防災研究センター Tel.0565-48-8121 内線2533

大橋 朝夫

工学部
電気学科
教授



電気工学科同窓生の皆さん、ご無沙汰しております。電子物性、電子デバイス工学、電気電子材料学などの科目を23年間担当して参りましたが、この度、教壇を降りることになりました。

卒業研究では静電気応用関係のテーマを指導してきましたが、皆さんの発想が面白くて楽しませていただきました。また、卒業後もときどき研究室を訪れて同期生の様子なども聞かせていただき、ありがとうございました。楽しい思い出ばかりです。

どうか皆さん、いつまでもお元気で。瑞若会の益々のご発展を祈念しております。

鶴飼 隆好

工学部
機械学科
教授



企業勤務を経験し、北海道大学で38年間の教育研究生活を経て、平成13年度から19年度までの7年間に愛工大機械学科に勤務しました。

いつの時代でも学生の純真さと、ひた向きさは変わりません。学生に対しては、企業の厳しさと研究の緻密さを伝えることに徹してきました。ものづくりの基本は設計の心構えにあります。細やかな心遣いと大きな決断を意味する“大胆小心”こそが設計、ものづくりの精神であることを教えてきました。プラスアルファの付加価値のあるものづくりに励む卒業生諸君にエールを送ります。

一OBとして新しい時代に向けた愛知工業大学のInnovationを期待しております。

中田 信正

経営情報科学部
情報科学科
教授



平成17年4月に、大学院経営情報科学研究科の開設にともない、経営情報科学部教授として奉職し、平成20年3月末に定年退職いたしました。

非常に充実した大学院創設期の3年間に、会計学を通して研究意欲旺盛な大学院生と有意義な交流を持つことができたことを感謝しております。学部の卒業研究に参加された学生諸君が水準の高い卒業論文集を作成してくれたことも、楽しい思い出です。

本年4月からは大学院の客員教授としてお世話になっておりますので、よろしくお願い申し上げます。

稲垣 康善

経営情報科学部
情報科学科
教授



平成19年4月から翌年3月31日までの1年間、大変お世話になりましたこと、有難く存じます。

自然豊かで広大な八草キャンパスでの教育や、本山キャンパスでの大学院生対象のセミナー形式の講義は、楽しい思い出…。私の講義を聴いてくれた学生が、いつかどこかで講義のことを話の片隅にでも出してくれることがあれば幸いに思います。

愛知工業大学の益々の発展を祈りつつ、心よりお礼申し上げます。

佐藤 由身子

経営情報科学部
情報科学科
教授



昭和61年(1986年)に教養部に奉職し、数学の教育と専門の確率論の研究に比較的静かな大学生活を享受させていただきました。しかし、周囲の情勢は変化してきて、愛工大にも経営情報科学部が平成12年に新設され、移籍しました。

それからは新しい出会いの8年間で、図書館長として5年、職員の方々のご協力のもとに管理運営に携わったことも大きな経験でした。いちばんの変化はセミナー等を通して学生たちとの距離がとて近くなったことです。とくに最後の年、4年生の担任として就職活動をする学生たちと共に一喜一憂しながら過ごしたことは、きついつまでも思い出されることでしょう。

社会に出た若い皆さんの前途が開けますように祈ります。

秦野 和郎

経営情報科学部
情報科学科
教授



私は昭和57年(1982年)4月に愛工大に助教授として採用され、5年後に教授に昇格させていただきました。平成20年3月退職するまで足掛け26年間お世話になりました。最初の22年間は電子工学科に所属しておりましたが、平成16年にコンピュータシステム専攻が新設されてからは経営情報科学部に転属になり、4年間に過ごさせていただきました。

愛工大での26年間で最も印象に残っているのは、採用されて一年ほど経った後、南京工学院(現東南大学)へ愛工大の代表団の一員として訪問したことです。この時以来、私は中国大好き人間になってしまっておりまして。

末筆ながら、愛工大、瑞若会の益々の発展をお祈りいたします。

人事異動に関するお知らせ

退職教員 (H20年3月31日付)

工学部電気学科	教授	大橋 朝夫
工学部電気学科	准教授	北村 隆
工学部電気学科	講師	小島 幹雄
工学部都市環境学科	教授	建部 英博
工学部機械学科	教授	鶴飼 隆好
経営情報科学部情報科学科	教授	秦野 和郎
経営情報科学部情報科学科	教授	佐藤 由身子
経営情報科学部情報科学科	教授	中田 信正
経営情報科学部情報科学科	教授	西田 耕三
経営情報科学部情報科学科	教授	稲垣 康善
経営情報科学部マーケティング情報学科	教授	長谷川 博

新任教員 (H20年4月1日付)

●工学部		
機械学科	教授	内田 誠之
都市環境学科	講師	武田 美恵
●経営情報科学部		
経営学科	教授	山本 勝
経営学科	准教授	吉成 亮
情報科学科	准教授	河辺 義信
情報科学科	講師	北坂 孝幸
●基礎教育センター		
総合教育教室	准教授	川端 元子

人事異動 (卒業生関係)

●新規採用		
エクステンションセンター	次長	佐伯 平二 46E
教学センター学生課	事務職員	鬼頭 明 H9K
財務部会計課	事務職員	橋本 知佳 H20A
●新規委嘱		
地域防災研究センター	嘱託職員	小林 有希 H15D
●昇任		
研究支援本部総合技術研究所	教授	渡邊 藤雄 40C
経営情報科学部経営学科	准教授	後藤 時政 H4K
計算センター事務室	係長	岡田 宏行 H6R
学生支援本部キャリアセンター	事務主任	田近みえ子 H8K
都市デザインカレッジ愛知	副校長	小川 喜信 50D
●任命		
経営情報科学部長・本山キャンパス長	近藤 高司 48K	
学長補佐・大学企画推進室長	鈴木 達夫 41K	
大学計算センター長	飯吉 僚 46R	
大学入試センター副センター長	建部 謙治 48A	
大学教学センター副センター長	伊藤 雅 59K	

◆穂香ちゃんへの支援活動のご報告

同窓生である福本祐司氏(H14B)と息子さん(H14A)を両親とする、穂香ちゃんが難病治療のため海外で手術等を行うことを応援し、募金活動が行われました。これに対して2月に愛知工業大学から30万円、同窓会から10万円を義捐金としてお渡ししました。穂香ちゃんはドイツで手術を受けて療養後、8月25日に無事、帰国されました。

その後の近況などについては下記のURLをご覧ください。

ほのかちゃんを救う会 <http://www6.ocn.ne.jp/~s-honoka/title.htm>

◆同窓生の集いで、本山キャンパスを無料で利用できます!

本山キャンパスの利用は、原則として瑞若会が施設を借用する土曜日か日曜日は可能です。利用日の1ヶ月前以上に、瑞若会事務局に申し込み手続きをしてください。また、同窓生から寄付をいただいた株券の基金により、グループ当たり1万円を限度とした飲み物代等の支援をします。また、本山キャンパス開講講座参加者については、一人当たり上限を3,000円として、一講座当たり参加費の半額を補助します。詳細については、「瑞若会ホームページ」をご覧ください。



◆入学金の減免措置について

次のいずれか1つに該当する新入生が対象となります。
※減免額は入学金の半額

- 1.卒業生(祖父・父・母)の子の方
- 2.兄弟(姉妹)が愛工大の卒業生の方
- 3.兄弟(姉妹)が愛工大に在学している方

◆「第19回瑞若会総会」開催のお知らせ

- 日時:平成21年7月4日(土)
 - 場所:名古屋ガーデンパレス
- 学科別同窓会も同時に開催いたします。

●瑞若会 平成20年事業報告(平成20年1月1日～20年12月31日)

本部の会議		各種行事
1月		■地域支部「中・四国支部新年懇親会」(1/26)
2月	第4回事務局会議開催(2/28) 第4回総務常任委員会開催(2/28)	
3月		■平成19年度 卒業式(3/22)「瑞若賞」贈呈 ■私立大学同窓会連合会拡大事務局長会議(3/28)
4月		■平成20年度入学式(4/1)新入生に「START-UP」配布
5月	第1回事務局会議開催(5/15) 第1回総務常任委員会開催(5/15)	
6月	●理事会・支部長会議(6/21) (名古屋ガーデンパレス)	■関東支部総会(6/1)(品川区立総合会館) ■「みずわか」編集委員会開催(6/17) ■職場支部「三友支部懇親会」(6/20) ■瑞若会教職員支部総会(6/28)
7月		■愛知県私立大学同窓会連合会平成20年度総会(7/11) (ホテルキャッスルプラザ) ■三重県支部役員会(7/12) ■名城大学校友会創立50周年記念式典出席(7/20) ■近藤グループ愛工会懇親会(7/25)
8月		
9月		■三重AITオープンフォーラム(9/13)(四日市都ホテル) ■三重県支部総会(9/13)(四日市都ホテル) ■岐阜AITオープンフォーラム(9/20)(岐阜グランドホテル) ■岐阜県支部総会(9/20)(岐阜グランドホテル) ■新会員の同窓会費入金処理(9/25) ■新会員のデータ入力(9/25) ■関西AITオープンフォーラム(9/27)(京都タワーホテル)
10月	第2回総務常任委員会開催(10/8)	■北陸AITオープンフォーラム(10/4)(金沢都ホテル) ■北陸支部総会(10/4)(金沢都ホテル) ■私立大学同窓会連合会拡大事務局長会議(10/17) ■静岡AITオープンフォーラム(10/18)(浜松名鉄ホテル) ■中・四国AITオープンフォーラム(10/25)(岡山日伸ホテル) ■愛工大祭 開催への援助
11月		
12月		■「みずわか vol.4」会員へ郵送

凡例：●本部事業 ■学内事業 ■支部事業 ■その他

会員計報

電気工学科卒

上村 永男(37E)
橋本 寛(50E)

電子工学科卒

梅山 芳樹(43R)
諸星 憲生(45R)
真野 正男(46R)
竹内 光(50R)

経営工学科卒

外狩 一茂(H8K)

マーケティング情報
学科卒

梶田 一宏(H16U)

●平成19年度決算書 収支計算書 ～経常経費～

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで(単位:円)

科目		予算額	決算額	差 額	備 考	
収入の部	入 会 金(基本金)	4,800,000	4,376,000	△424,000		
	終 身 会 費	24,000,000	21,880,000	△2,120,000		
	年 会 費	0	8,000	8,000		
	受 取 利 息	200,000	343,879	143,879		
	雑 収 入	0	110,405	110,405		
	当期収入合計①	29,000,000	26,718,284	△2,281,716		
	前期繰越金②	68,423,387	68,423,387	0		
収入の部合計①+②		97,423,387	95,141,671	△2,281,716		
支出の部	事業費	学科・支部援助費	3,000,000	2,351,853	△648,147	
		大学祭援助費	600,000	600,000	0	
		会 報 発 行 費	7,000,000	6,503,515	△496,485	
		卒業記念品費	2,000,000	2,345,200	345,200	
		準会員支援費	900,000	958,750	58,750	
		名簿管理・IT関連費	1,500,000	1,591,380	91,380	
	小 計	15,000,000	14,350,698	△649,302		
	事務費	人 件 費	1,200,000	935,820	△264,180	
		消 耗 品 費	600,000	516,858	△83,142	
		会 議 費	1,500,000	1,213,887	△286,113	
		慶 弔 費	400,000	367,750	△32,250	
		私大同窓会連合費	150,000	120,940	△29,060	
	雑 費 ・ 手 数 料	100,000	139,176	39,176		
	小 計	3,950,000	3,294,431	△655,569		
予 備 費	400,000	0	△400,000			
基 本 積 立 金 へ	4,800,000	4,376,000	△424,000	入会金		
当期支出合計③	24,150,000	22,021,129	△2,128,871			
当期収支差額④(①-③)	4,850,000	4,697,155	△152,845			
50周年準備費へ⑤	3,000,000	3,000,000	0			
次期繰越金⑥(②+④-⑤)	70,273,387	70,120,542	△152,845			
支出の部合計③+⑤+⑥	97,423,387	95,141,671	△2,281,716			

●平成19年度決算書 収支計算書 ～基本積立金～

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで(単位:円)

科目		予算額	決算額	差 異	備 考
収入の部	経常経費から繰入	4,800,000	4,376,000	△424,000	
	前 期 繰 越 金	174,484,087	174,484,087	0	
	収 入 の 部 合 計	179,284,087	178,860,087	△424,000	
支出の部	次 期 繰 越 金	179,284,087	178,860,087	△424,000	
	支 出 の 部 合 計	179,284,087	178,860,087	△424,000	

●平成19年度決算書 収支計算書 ～50周年準備費～

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで(単位:円)

科目		予算額	決算額	差 異	備 考
収入の部	経常経費から繰入	3,000,000	3,000,000	0	
	前 期 繰 越 金	13,156,440	13,156,440	0	
	収 入 の 部 合 計	16,156,440	16,156,440	0	
支出の部	次 期 繰 越 金	16,156,440	16,156,440	0	
	支 出 の 部 合 計	16,156,440	16,156,440	0	

内 訳 明 細		金 額
次期繰越額	基 本 積 立 金	178,860,087
	経 常 経 費	70,120,542
	50 周 年 準 備 金	16,156,440
	合 計	265,137,069